

6 池袋西地域



1 地域の特徴

(1) 位置

区の中央部に位置する池袋1丁目から4丁目、西池袋1丁目及び3丁目から5丁目の区域です。東側は池袋東地域、北側は池袋本町・上池袋地域、西側は高松・要町・千川地域と長崎・千早地域、南側は目白地域、北西側は板橋区に接しています。

図表5-48 池袋駅西口派出所前通り
(昭和10(1935)年代)



資料：写真で見る豊島区50年のあゆみより
転載

(2) 市街地の変遷

江戸時代、ほとんどが野菜類の生産を中心とした農村地帯で、天正年間（1573～1592年）の創建と伝えられる御嶽神社は防災・厄除けの神として信仰されていました。

明治36（1903）年に日本鉄道豊島線「田端～池袋」間が開通し、池袋駅が開設されました。明治42（1909）年に豊島師範学校、明治44（1911）年には成蹊実務学校（現成蹊大学）が開校しました。

大正時代になり、東上鉄道（現東武東上線）と武蔵野鉄道（現西武池袋線）が相次いで開通し、大正7（1918）年に築地の外国人居留地から池袋へ立教大学が移転してきました。また、関東大震災後には大きな被害を受けた下町地域から多くの人に移住し、宅地化が進みます。

しかし、戦災で大きな被害を受け、昭和21（1946）年から戦災復興土地区画整理事業が実施されました。昭和29（1954）年、営団地下鉄丸ノ内線（現東京メトロ丸ノ内線）「池袋～御茶ノ水」間が開通し、昭和35（1960）年に、池袋は新宿、渋谷とともに「副都心」に位置づけられます。その後、昭和49（1974）年に営団地下鉄有楽町線（現東京メトロ有楽町線）が開通し、昭和51（1976）年から平成3（1991）年にかけて池袋2丁目付近の土地区画整理事業が実施されました。また、この間に東京芸術劇場やホテル、公共機関等が建設され、商業、業務、文化・交流などの機能が集積しました。

平成20（2008）年に東京メトロ副都心線が開通し、平成25（2013）年には東武東上線、西武池袋線・有楽町線、東京メトロ副都心線・有楽町線、東急東横線及び横浜高速みなとみらい線の相互直通運転が開始されました。

（3）主な景観要素

①地形・自然

- みどりの拠点である立教大学は、まとまりのある貴重なみどりの空間となっています。
- 劇場通りは、ケヤキやトウカエデの美しい並木が続いています。
- かつての谷端川の流れは、現在、谷端川南緑道として整備されています。
- 「池袋の森」は、樹木や池などがあり、トンボが飛来する公園となっています。
- 要町通りの祥雲寺周辺から山手通りにかけて、緩やかな祥雲寺坂があります。

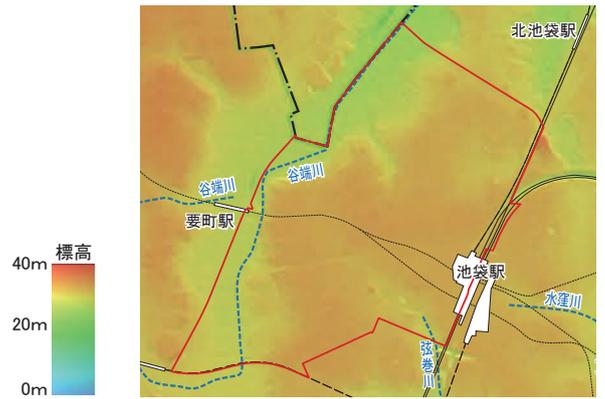
②歴史・文化

- 祥雲寺や功雲院、洞雲寺、御嶽神社、三社神社など歴史のある寺社があります。
- 昭和初期に多くの芸術家が住んでいたことから、詩人の小熊秀雄はパリのモンパルナスにちなみ、「池袋モンパルナス²⁴」と名付けました。
- 東京芸術劇場は、東京の音楽・舞台芸術を代表する顔として、文化芸術の創造発信、にぎわい、国際文化交流などの拠点となっています。
- 池袋西口公園のリニューアルで整備された野外劇場「GLOBAL RING」は、新たな文化芸術の拠点となっています。
- 東京芸術祭や新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館など、文化芸術イベントが開催されています。
- 立教大学の本館（モリス館）、図書館旧館、礼拝堂、第一食堂、2・3号館は、東京都選定歴史的建造物²¹に指定されています。
- 旧江戸川乱歩邸の土蔵は、書庫と書斎兼用で使われ、数多くの名作が生み出されました。
- ふくろ祭りや東京よさこい、東京フラフェスタin池袋など人々の熱気が感じられる祭りが開催されています。
- アジアを中心に様々な国の料理や雑貨を扱う店が並び、多文化に接することができます。

③まち・界隈

- 池袋駅周辺は、池袋副都心の核として商業機能を中心に文化・交流機能が集積しています。
- 池袋駅を中心とする商業業務地を囲むように住宅地が広がっています。

図表5-49 池袋西地域の等高線



資料：基盤地図情報数値標高モデル(国土地理院)をもとに作成

図表5-50 池袋の森



図表5-51 祥雲寺



図表5-52 東京芸術劇場



画像提供：東京芸術劇場

21 東京都選定歴史的建造物：21ページ参照

24 池袋モンパルナス：21ページ参照

- 立教大学周辺は、大学の歴史的な建築物の雰囲気を生かした街並みづくりに取り組んでいます。
- 池袋第三小学校は、平成29（2017）年に立教大学の煉瓦づくりの意匠を取り入れた新校舎に建て替えられています。
- 都市計画道路補助173号線は区が整備を進め、平成29（2017）年度に完成しています。

④人々が織りなす魅力

- 池袋駅西口では、地域の団体や大学生などが協働して緑化に取り組むなど、まちの魅力を高める活動が展開されています。

2 景観まちづくりの視点

- 新たな池袋モンパルナスを創造する舞台にふさわしく、国内外の人々がまちを楽しめる景観の創出が必要です。
- 池袋副都心に近接しながら、歴史ある寺社が残り、落ち着いた住宅地の魅力を感じられる景観形成が必要です。
- 立教大学や西池袋公園、劇場通りのケヤキ並木などのみどりを生かして、潤いの広がる街並みづくりが必要です。

3 景観まちづくり方針

1 ゆとりと潤いを創出する

- 立教大学や西池袋公園、寺社などのみどりを生かして、潤いと安らぎが広がる景観形成に取り組みます。
- アゼリア通りや劇場通りでは、人々が四季の彩りとにぎわいを感じながら、楽しく憩える街並みを形成します。
- 谷端川南緑道は、かつての水の流れを生かして、連続したみどりを楽しめる景観形成を進めます。

図表5-53 劇場通り



2 歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する

- 東京芸術劇場や池袋西口公園、アゼリア通りなどは、文化芸術の舞台として、人々が表現し、楽しむ表情を育む街並みをめざします。
- 諸外国の料理が楽しめる飲食店や国外から訪れる人々が宿泊する施設などの集積を生かし、多文化が共生してにぎわう街並みをめざします。
- 祥雲寺や洞雲寺、御嶽神社、雑司ヶ谷道などを地域の資源とし

図表5-54 アゼリア通り



て、次世代へ引き継ぎ、歴史を感じられる景観を形成します。

- 東京芸術祭や新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館など、文化芸術の創造を担う人々の姿を大切な風景として育てていきます。

3 人々の生活・営みを映す

- 池袋駅周辺は、首都機能の一翼を担う拠点として国内外の人々に選ばれる風格を備えた景観を形成します。
- 要町駅周辺は、地域の人々が活発に交流し、にぎわう生活拠点到にふさわしい街並みを形成します。
- ふくろ祭りや東京よさこい、東京フラフェスタin池袋など、祭りによって生み出される人々の熱気を景観資源として活用していきます。

4 地域の特性を惹き立てる

- 池袋副都心に近接した住宅地の魅力を生かして、都心居住を楽しめる街並みづくりをめざします。
- 幹線道路沿道は、みどりの潤いを感じられる安全で快適な歩行者空間を形成します。
- 立教大学周辺では、大学の歴史的な建築物やみどりを生かしながら、個性ある街並みを形成します。
- 西池袋4丁目の低層住宅地は、みどり豊かで落ち着きのある街並みを維持・保全し、ゆとりと潤いを感じられる住環境を形成します。
- 補助173号線沿いでは、地域特性を踏まえながら、道路と沿道が一体となった景観を形成します。
- 立教通りは、ゆとりある歩行者空間を創出し、学生でにぎわう街並みを形成します。

5 個性ある街並みを創出し、楽しめる仕組みを構築する

- 地域によるイベント開催や緑化活動と連携し、魅力ある景観まちづくりを推進します。
- 新たな池袋モンパルナスの文化をともに担う、高松・要町・千川地域や長崎・千早地域と連携し、文化芸術を楽しめるフットパスマップの作成など、人々の回遊性を高めていきます。

図表 5-55 御嶽神社



図表5-56 東京フラフェスタin池袋



図表5-57 立教大学本館（モリス館）

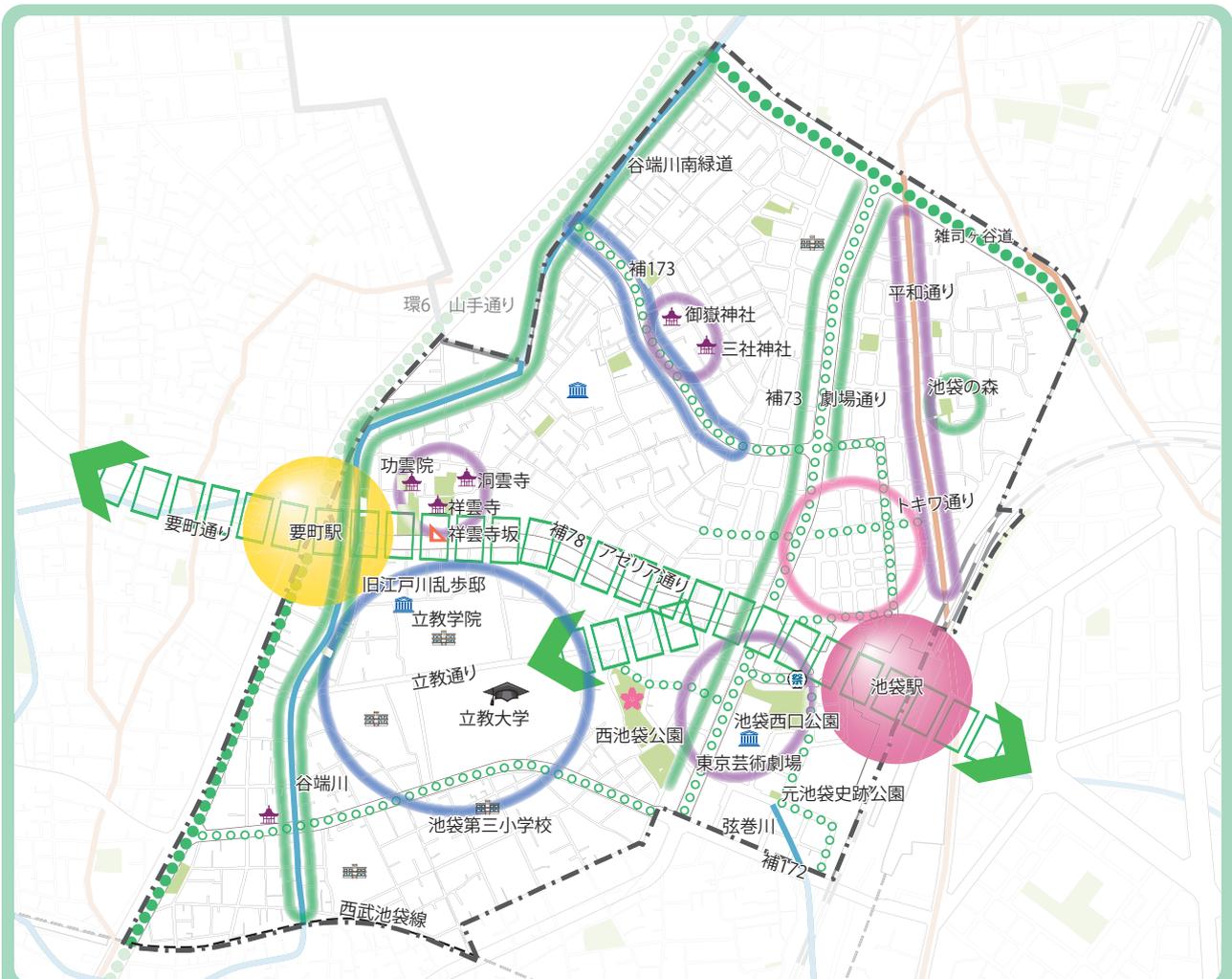


画像提供：立教大学

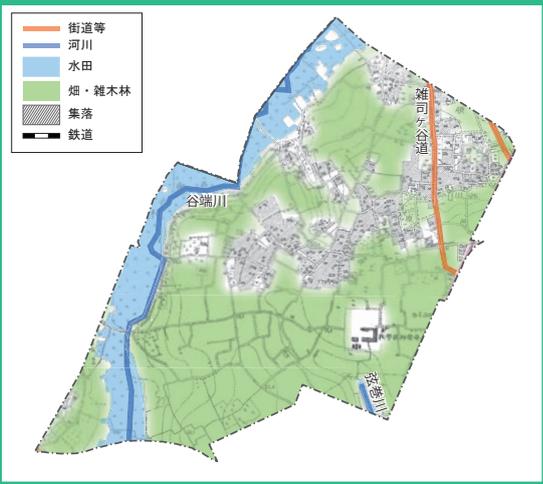
図表5-58 新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館



図表 5-59 池袋西地域の景観まちづくり方針図



明治42(1909)年の市街地の様子



凡例

	ゆとりと潤いを創造する		鉄道駅周辺
	歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する		みどりの骨格軸
	人々の生活・営みを映す		みどりの回廊(幹線道路)
	地域の特性を惹き立てる		みどりの回廊(街路樹)
	個性ある街並みを創造し、楽しめる仕組みを構築する(全域)		鉄道(JR)
	坂		鉄道(東武・西武)
	寺社		都電
	花の名所		都市計画道路未着手区間
	大学		
	教育施設		
	祭り		
	文化資源		
	新たな文化拠点		
	旧道		
	旧河川		
	神田川		
	公園など		